

徳 島 大 学

サマープログラム報告書 2 0 2 3



＜編集＞

徳島大学サマープログラム等実施委員会

*Summer Program Organizing Committee
Tokushima University*

巻頭言

2023（令和5）年度は4部局において徳島大学サマープログラム・サマースクール等を開催し、無事成功裡に終了することができました。本事業を連携・調整する立場にあるサマープログラム等実施委員会委員長として、各部局において本事業を企画・実施いただいた担当の教職員の皆様、参加された大学院生・学部学生の皆様には、まずもって敬意を表しお礼を申し上げます。

徳島大学サマープログラム・サマースクールは、学術交流協定校等の学生・教職員を対象とし、夏休み等を利用して、短期滞在を通じて各部局において実施されている特色ある教育研究の取り組みや地方都市、徳島の魅力を紹介し、将来の留学先としての徳島大学をアピールすることを目的にしています。同時に本学の学生にも参加を呼びかけ、在学生のグローバル化、キャンパスのグローバル化も目指しています。

徳島大学では、2007（平成19）年、大学院先端技術科学教育部、国際連携教育開発センターの主催により最初のサマースクールが開催されました。翌2008（平成20）年、本学は文部科学省による「大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援）」の1つ「交流プログラム開発型」事業に採択されました。文部科学省支援の下、同年、大学院ヘルスバイオサイエンス研究部とソシオテクノサイエンス研究部の主催による2コースのサマープログラム・サマースクールが開催されました。2012（平成24）年から国際センターおよび総合科学部サマースクールが実施されるようになりました。この間、2010（平成22）年には国際センター主導により、中国大連理工大学日本語教員研修コースと中国大連理工大学ソフトウェア学院学生日本文化体験・IT技術研修コースが実施されています。また、これらサマープログラム・サマースクールの事務は当初より国際課が中心となり、国際連携教育開発センター事務、各部局事務の協力を得てきました。

2012（平成24）年にサマープログラム等実施委員会が設置され、以後、本事業は全学的に取り組まれ、実施されるようになりました。2020（令和2）年度から2022（令和4）年度は、新型コロナウイルス感染症の世界的流行により、対面のプログラムが中止されたため、いくつかのプログラムをオンラインで実施しました。2023（令和5）年度の徳島大学サマープログラム・サマースクール等は、本報告書にまとめられているとおり、対面・オンライン合わせて海外からの学生や引率教員170人余りが参加しました。徳島大学を初めて訪れる留学生が研究室訪問等を通じて、先生方とFace to Faceで交流できる貴重な出会いの場を提供していますことも特筆に値します。今後、本事業をさらに魅力的なものにするとともに、その成果が現れ、海外から本学への優秀な留学生の入学が増加することが期待されます。また、本学の日本人学生の海外留学意欲が向上することも望まれます。そして本事業が徳島大学のグローバル化教育の推進に少しでも役立てば関係者にとって望外の喜びとするところです。

最後に本年度のサマープログラム・サマースクール等の実施にご尽力を賜った各部局の教員各位、事務職員の方々に深く感謝申し上げます。

令和6年3月
サマープログラム等実施委員会委員長
高橋 晋一

内容

1	サマープログラム2023	1
2. 1	総合科学部サマープログラム	5
2.1.1	目的	5
2.1.2	日程	5
2.1.3	講義概要	5
2.1.4	エクスカージョン	6
2.1.5	修了証書	8
2.1.6	アンケート結果	9
2.1.7	今後の課題とまとめ	15
2. 2	歯学部学生交流プログラム	17
2.2.1	目的	17
2.2.2	日程	17
2.2.3	講義概要	18
2.2.4	エクスカージョン	19
2.2.5	修了証書	20
2.2.6	アンケート結果	22
2.2.7	成果報告	22
2. 3	創成科学研究科サマースクール	24
2.3.1	目的	24
2.3.2	日程	24
2.3.3	講義概要	26
2.3.4	エクスカージョン	28
2.3.5	修了証書	28
2.3.6	アンケート結果	28
2.3.7	成果報告	29

2.3.8	今後の課題とまとめ	29
2. 4	インターナショナルオフィスサマースクール 「徳島であおう！」	31
2.4.1	目的	31
2.4.2	日程	31
2.4.3	講義・活動概要	34
2.4.4	エクスカーション	35
2.4.5	修了証書	37
2.4.7	成果報告	38
2.4.7	今後の課題とまとめ	40
3	サマースクール T シャツ	42

1 サマープログラム 2023

1. 1 サマープログラムの目的

- (1) 徳島大学を海外にアピールし、海外から見た本学の価値を高める
- (2) 学術交流協定校との関係を強化する
- (3) 将来の優秀な本学留学生確保につなげる
- (4) 徳島および日本を知ってもらい、徳島・日本を身近に感じてもらう
- (5) 徳島大学の教員、職員、学生の国際化を図る
- (6) 英語による授業を拡充する

1. 2 沿革

(1) 2008 (H20) 年度

6月 文部科学省「平成20年度大学教育の国際化加速プログラム（国際共同・連携支援；交流プログラム開発型）」に「英語力を基盤とする新国際化教育プログラム―サマープログラムと短期海外派遣による国際相互交流の推進―」が採択された。

8月「サマープログラム2008」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンスコース（蔵本キャンパス）

8月～3月の間に「短期学生派遣プログラム」として3プログラムを実施した。

- ① 特別研究プログラム
- ② リサーチプログラム
- ③ 短期語学研修プログラム

(2) 2009 (H21) 年度

8月「サマープログラム2009」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース（常三島キャンパス）
- ② ヘルスバイオサイエンスコース（蔵本キャンパス）

8月～12月の間に「短期学生派遣プログラム」として3プログラムを実施した。

- ① 特別研究プログラム
- ② サマーリサーチプログラム
- ③ 短期語学研修プログラム

(3) 2010 (H22) 年度

8月「サマープログラム 2010」として4コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンスコース (蔵本キャンパス)
- ③ 中国大連理工大学日本語教員研修コース (新蔵地区・常三島キャンパス)
- ④ 中国大連理工大学ソフトウェア学院学生日本文化体験・IT 技術研修コース (常三島キャンパス)

(4) 2011 (H23) 年度

7月～8月の間に「サマープログラム 2011」として2コースを実施した。

- ① ソシオテクノサイエンスコース (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンスコース (蔵本キャンパス)

(5) 2012 (H24) 年度、2013 (H25) 年度

6月～8月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム (蔵本キャンパス)
- ③ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (新蔵地区)
- ④ ソシオテクノサイエンス研究部サマースクール (常三島キャンパス)

(6) 2014 (H26) 年度

7月～2月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール (常三島キャンパス)
- ② ヘルスバイオサイエンス研究部統合大学院サマープログラム (蔵本キャンパス)
- ③ 先端技術科学教育部サマースクール (常三島キャンパス)
- ④ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (新蔵地区)

(7) 2015 (H27) 年度

7月～8月の間に4コースを実施した。

- ① 総合科学部サマースクール (常三島キャンパス)
- ② 医歯薬学研究部統合大学院サマープログラム (蔵本キャンパス)
- ③ 先端技術科学教育部サマースクール (常三島キャンパス)
- ④ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (新蔵地区)

(8) 2016 (H28) 年度～2019 (H31) 年度

7月～8月の間に3コースを実施した。

- ① 総合科学部サマープログラム (常三島キャンパス)
- ② 先端技術科学教育部サマースクール (常三島キャンパス)
- ③ 国際センターサマースクール「徳島であおう！」 (常三島キャンパス)

1. 3 実施概要

開講コース	総合科学部サマープログラム 2023 (令和 5) 年 7 月 21 日～8 月 2 日 歯学部学生交流プログラム 2023 (令和 5) 年 11 月 6 日～11 月 24 日 創成科学研究科サマースクール (オンライン) 2023 (令和 5) 年 7 月 24 日～8 月 11 日 創成科学研究科スプリングスクール 2024 (令和 6) 年 2 月 24 日～3 月 6 日 インターナショナルオフィスサマースクール「徳島であおう！」 2023 (令和 5) 年 7 月 19 日～7 月 26 日 各コースともに、海外の学生を対象とした英語又は日本語による短期集中講義等を実施して、本学の学生を共に参加させる。
開講場所	徳島大学 常三島キャンパス、蔵本キャンパス
対象学生	・ 学術交流協定校等からの留学生・教員 ・ 本学学生
主な内容	担当教員による講義、課外活動

1. 4 単位の認定

徳島大学で短期集中講義等を実施し、受講者に修了証書を発行

受入留学生：派遣元大学で将来単位認定が可能

徳島大学生：創成科学研究科サマースクール 国際先端技術科学特論 A 1 単位

2. 1 総合科学部サマープログラム

Summer Program of Tokushima University , Integrated Arts and Science Course

2. 1 総合科学部サマープログラム

2.1.1 目的

徳島大学総合科学部のディプロマ・ポリシーには、国際交流、多文化に関することとして「1. 知識・理解」の項に、

- (1) 人文・人間・社会・地域・情報等の諸科学における専門知識を体系的に理解するとともに、専門分野の融合を図ることで、グローバル化する現代社会の諸問題や地域課題を的確に理解することができる。
- (2) 多文化・異文化理解や専門的知識の体系化を通じて、自己の存在を歴史・社会・自然と関連付けて理解することができる。

と記されている。

「グローバル化」「地域課題」の解決や、「多文化・異文化理解」との関わりにおいて、ディプロマ・ポリシーを具現化させる取り組みの一つに、サマープログラムを位置づけることができる。今年度は、総合科学部の学部間協定校である育達科技大学と、関係する彰化師範大学（ともに台湾）から5名の留学生を迎え、学内外でのさまざまな機会を通じて、本学の学生や地域の方々、高校生と交流を行なうこととした。簡潔で明快な日本語「やさしい日本語」を使った対話を通じて、お互いの言語や文化を学び、コミュニケーション力を高めるとともに、それぞれの立場を尊重した多文化・異文化理解を深めることが、本プログラムの目的である。

活動場所は、大学内はもちろん、学外は三好市祖谷、美馬市脇町、阿南市、上板町といった県内各地に広がる。高校生や地域の方々との交流を通じた実践的な体験、課題解決の場を設け、地域の実情や抱えるさまざまな問題を知り、その解決方法について考察を深める場としている。さまざまな地域でのさまざまな人々との交流によって、地域の方々にも、多文化・異文化理解に対する興味や理解を深める好個の機会となることが期待される。

研修期間中は、総合科学実践プロジェクトB（吉岡宏祐先生担当）の学生や、日本語演習（村上担当）の学生、さらには台湾からの特別聴講学生（交換留学生）を中心に、各プログラムへの同行、留学生が宿泊するしんくら会館でのサポートを行なった。しんくら会館での夕食会は、お互いが趣向を凝らしたもので、相互理解を深めるのに効果的な場となった。

春休み期間中に実施する総合科学部の台湾研修（総合科学実践プロジェクト J 台湾文化研修）には、2024年春、4名の学生が参加予定である。コロナ禍前は、20名を優に超える参加者を数えたプログラムであった。活発な相互交流のためには、夏に実施されるこのプログラムが、何よりもきっかけになることは間違いないところである。サマープログラムの経験が、短期、そして長期留学への足がかりになることは、忘れてはならない。本プログラムにおける種々の交流活動を契機として、本学の学生が、短長期の留学へとつなげていくことが、大いに期待される場所である。

2.1.2 日程

2023年7月21日(金)～8月2日(水)

2.1.3 講義概要

- 学部専門科目「総合科学実践プロジェクトB」での交流授業
- 教養教育院講義「世界の中の日本語」での交流授業
- 学部専門科目「日本語演習」「日本語表現の基礎」での交流授業
- 大学院「創成プロジェクト研究」での交流授業

2.1.4 エクスカーション

- 高校生との交流会

7月24日(月) 池田高校との交流会

7月25日(火) 脇町高校との交流会



池田高校にて



脇町高校にて

- 学外施設等見学、訪問

7月22日(土) 阿波十郎兵衛屋敷、うずしお観潮船、藍染め体験、霊山寺
(徳島市、上板町、鳴門市)

7月23日(日) 大塚国際美術館(鳴門市)

7月24日(月) 大歩危小歩危、吉野川遊覧船、かずら橋(三好市)

7月25日(火) うだつの町並み(美馬市)

7月29日(土) 阿波踊り会館、新町川クルーズ(徳島市)

8月1日(火) 大阪城など(大阪市)



藍染め体験



大塚国際美術館



霊山寺



かずら橋

No



**FACULTY OF INTEGRATED ARTS AND SCIENCES
TOKUSHIMA UNIVERSITY**

1-1 Minami-Josanjima, Tokushima 770-8502 Japan

August 2, 2023

CERTIFICATE OF COMPLETION

Name:

Date of Birth:

This document certifies that the student mentioned above has successfully completed the following programs.

Program

Title: Summer Program of Tokushima University

Course: Integrated Arts and Sciences course

Professor: MURAKAMI, Keiichi, YOSHIOKA, Koyu

Period: July 21, 2023 –August 2, 2023

Hours: 90h

Signature

TAKAHASHI, Shinichi

Dean

Faculty of Integrated Arts and Sciences
Tokushima University

2.1.6 アンケート結果

【高校生の感想から】

池田高校 A さん

大歩危峡まんなかで一緒に昼食を食べたときに、「日本人があまり朝ごはんを食べないことにショックをうけた」や「台湾のたこ焼きはチョコレートソースもかけて食べる」などいろんな話をしてくれました。鮎の食べ方を教えてあげると、「日本人みたいに綺麗に食べるのは難しい。」と苦戦している様子でした。他の学生さんともスマホの翻訳機能を活用してお話をしました。私がイメージしていたものとは違うものだったりして興味深かったです。

また、祖谷八景などを訪れて祖谷の魅力を知ることができました。特に、昔ながらの良さ、風習が残っていることが印象的でした。この地域の人には当たり前のことでも若い人や外国人観光客にとっては past perfect を感じられる貴重な場所だと思いました。今回、私は初めてかずら橋や舟下りを体験しました。台湾の学生さんと同じ気持ちで学ぶことができて良かったです。台湾交流会を通して、異なる文化から新しいことを知れたとともに地元の魅力を再発見することができました。

池田高校 B さん

バスの中で横に座った方と話をした時に、言語が違うけど話せるか不安だったけど相手の方が日本語がとても上手で、アニメとか音楽とか趣味が似ていたところもあって話していてとても楽しかったです。日本の文化好きって言うてくれて嬉しかったし、逆に自分が知らない日本の文化について教えてくれたので勉強になりました。

「まんなか」でご飯食べる時には人数が増え、魚の食べ方教えてくれました。台湾の食べ物や観光スポットの話とか聞けて面白かったです。千と千尋の舞台が台湾なある話は初めて聞いたので興味深かったです。

かずら橋や舟下りは今までに何回か行ったことがあったけど、祖谷八景は行ったことがなかったのので宿を運営している方の話とか聞けて良かったと思います。

次の日みんなでご飯食べた時も 「みんなで同じご飯食べることで美味しいですね」 って言い合ったりできて楽しかったです。

今まであまり外国の方と触れ合う機会がなかったのが台湾について知る機会にもなったし、周りから見た三好市はどうなのかといったことも知ることが出来て有意義な時間になりました。

池田高校 C さん

台湾の学生さんが自分の箸を持っていた。環境に対する意識が高くて驚いた。自分たちから話しかけたくて、料理やことばについて調べてみたが、話しかけるのが難しかった。自分が日本に興味を持ったきっかけに、日本が好きな人がいると言っていた。日本に興味を持ってくれてうれしかったし、興味を持った国に行ってみるという行動力がすごいと思った。

脇町高校 U1 さん

台湾留学生と交流してみて、最初に思ったのが、すごく面白いなと思いました。なぜなら、日本語で文化を交流して、台湾の食べ物や観光地を教えてもらい、ぜひ行ってみたいと思いました。今回は、日本語で交流したけど、次は、中国語で日本の食べ物や観光地を教えられようになりたいです。

脇町高校 F さん

最初はうまく話せるか緊張していたけど、留学生の人たちからもたくさん話しかけてくれて、とても楽しかったです。私たちの日本語を理解してくれようと耳を傾けて聞いてくれてうれしかったです。私の名前の中国読みを覚えてくれたのがうれしくて気に入りました。また、台湾で人気のアニメなどが日本でも人気なものが多くて、似ているところもあって驚きました。とても良い交流ができたと思うし、とても楽しかったです。

脇町高校 I1 さん

少し緊張していましたが、とても気さくに、フレンドリーに接してくださって嬉しかったです。どの方も日本語がお上手で驚きました。台湾についてあまり知らなかったなので、お話を聞くことができ良かったです。台湾に行くのがより一層楽しみになりました。台湾について自分なりに調べてみようと思います。短い時間ではありましたが、交流できてとても楽しかったです。ありがとうございました。

脇町高校 I2 さん

私は留学生の人との交流で台湾のお土産や有名な観光地、有名なスポーツ、有名な料理などについて聞きました。そして実際にそれらの画像を見せてもらったりもしました。見てみるとどれもおいしそうでした。またどの学生もお土産でパイナップルケーキをおしていたので実際に現地に行ったときは買ってみたいと思いました。また台湾はスポーツや気候の面で日本と似ているのだなと思いました。

脇町高校 U2 さん

今回の交流でたくさんの刺激を得ることができた。はじめに彼らをみた時、心なしか自分よりも大人に見えて、少し萎縮してしまっていた。しかし実際に話をしてみると、意外な共通点もたくさんあり、壁を感じることなく打ち解け合えることができた。きっと戸惑うことがたくさんあると思うが、もっと仲を深めて、台湾研修をお互いに濃い思い出にできればいいと思う。

脇町高校 0 さん

僕は台湾人とは初めて話したので緊張しましたが思っていたよりも流暢な日本語を話していたので驚きました。話している中で日本の文化の中ではアニメやゲームなどの文化が多く知られていることがわかりました。F さん（本校に在籍していたドイツ人留学生）とはまた違うコミュニケーションの仕方だったのではじめは交流の仕方が手探りでしたが話していくうちにお互いに、盛り上がるような話題がわかり始めたので楽しく交流できました。僕も中国語を研修前までに最低限話せるようにしておきたいです。今回の交流会で異文化交流の楽しさや交流を上手くするための方法がわかりました。SEEDS などの課題活動にも活かしていきたいです。

脇町高校 K さん

先日の台湾の方々との交流は、とても楽しかったです。日本と台湾には、文化的な面はもちろん、たくさんの違いがあります。自分が知らないことを沢山知っている人と交流するのはやはり、とても刺激になると感じました。また、いらしてくださった台湾の方々はとても日本語が上手で驚きました。外国語に積極的に取り組み、身につけている姿を見て、私も英語学習を頑張ろうと感じました。

脇町高校 S1 さん

交流してみて会話することは楽しいことだなと改めて感じました。私はあまり人と話す事が得意ではないのですが、異文化の台湾の方と今回話して、新しい発見があったり共通の話題で盛り上がったりととても楽しかったです。また、自分のジェスチャーが伝わった時は嬉しかったし、なんとか伝えようとする気持ちは大切だなと感じました。また、おすすめの食べ物やお土産などについて台湾の方から知ることができてよかったです。

脇町高校 S2 さん

台湾の留学生の方たちとの交流を通して、とても台湾に対する興味が湧いてきた。留学生の方たちはとても優しく、台湾のことについて話されているときはとても楽しそうで、良い国なのだろうと思った。また、台湾でも日本の文化が非常に人気で、私が知らないようなアニメまでもが認知されていて、もっと、台湾の人たちが日本のどんなことに興味があるのか知りたいと思った。

脇町高校 C さん

日本の文化が台湾の人たちの間でも広まっているとわかって嬉しくなった。アニメやマンガ、ゲームなどたくさん知ってくれていた。日本には他にもたくさんの文化がある。それをもっと海外の人たちに伝えていきたいと思うようになった。交流の前はちゃんとコミュニケーションを取れるのか心配だったけど、気さくに話しかけてくれて、とても話しやすかった。台湾への興味もより大きくなった。

脇町高校 Tさん

台湾の留学生と交流して、台湾でも日本のゲームやアニメが人気であることを知って嬉しかったです。留学生の方に台湾で美味しい食べ物を教えてもらったり、自分の名前の日本語読みを教えて貰ったりして、嬉しかったです。もっと色んなことを教えてもらいたいからもっと仲良くなりたいと思いました。

脇町高校 Dさん

留学生の方々は日本語がとても上手で、話しやすかったです。また、そのうちの一人とは好きなアニメが同じで、話が盛り上がりました。そのことから、生まれ育った国が違っていても夢中になれるものがあれば、人はつながることができる実感しました。また、高校内を案内した時、大きい体育館や部活動など私たちが普通だと思っていたことが彼らにとっては珍しいことであることもあと知りました。

脇町高校 Hさん

最初、私は留学生の方達と交流することに緊張感がありました。しかし、グループになったみんなですべてのテーマについて話をしていくにつれて緊張は解けていき、とても楽しい時間になりました。意思疎通ができることに嬉しくなりました。

脇町高校 Mさん

台湾のことは全く知らなかったのだから聞きたいことはたくさんあった。聞いた中で一番驚いたのはゲームについてだ。僕がハマっているゲームが台湾でも流行っていると知り、現地の学生ともこのゲームのことで話のきっかけを作りたい。ほかにも日本のアニメが台湾でも流行っていると聞き、台湾のことをもっと知りたいと思った。

徳島県立脇町高等学校2年 IMさん

台湾研修で、一番印象に残っていること。それは、台湾の学生との交流だ。事前研修で、日本に興味・関心を持っており、積極的な学生が多いと聞いていたが、本当にその通りであった。交流の中で学生達は、台湾のことをたくさん教えてくれた。台湾のことを知れば知るほど、興味が湧いてきた。また、台湾のことがもっと好きになった。他にも、日本の良さや魅力を教えてくれ、自国のことを他国の視点から客観的に見ることの大切さに気付いた。友達ができたこと、「日本が好き」と言ってくれたことが特に嬉しかった。

台湾研修を通して、様々なことに興味・関心を持ったり、視野を広げたりすることができた。間違いなく、私にとって良い経験、貴重な体験となった。何より、台湾の学生達と出会うことができて良

かった。積極的で、社交的な学生達から、生活面でも勉強面でもたくさんの刺激をもらった。これからも、友達でいたい。そして、さらに友情を、絆を深めていきたい。

徳島県立脇町高等学校 2 年 FM さん

台湾の人たちとの交流や研修を通して、自分から積極的に話しかけ、コミュニケーションをとることで、人間関係の輪が広がっていくことを学び、とても大切なことだと感じた。

はじめの交流はうまく話せるかととても緊張していたが、留学生の人たちが「台湾のことで何か知りたいことはありますか？」などと積極的に話しかけてくれた。そのおかげでたくさん話すことができ、時間がたつのが早いと思うくらいとても楽しい交流ができた。自分からあまり話しかけられなかったのが残念だったが、この交流を通して自分から積極的に話しかけることの重要性を学んだ。

また交流の中で自分の名前を中国語読みで教えてくれる機会があった。その交流から、一緒に参加していた友達から時々中国語で名前を呼ばれるようになり、それがクラスの何人かに広まって今まで話したことがなかった友達とも話すようになった。この交流のおかげで日本の友達も増えて、台湾の友達もたくさんできた。

文化や生活が違って、アニメや芸能人などで繋がれるところがたくさんあった。お互いを知り合っていく度に話が膨らんでいき、会話が盛り上がったのが良かった。本当に学び多き充実した時間を過ごすことができた。実際に、現地の人たちと交流してみないとこんな気持ちを味わうことはできないと思う。

とても貴重な経験ができて、様々なことを学んだ。こんな良い機会を設けてくださって本当に感謝の気持ちでいっぱいだし、この経験をこれからの人生に活かしていきたい。

【台湾学生の感想から】（提出原稿の通り）

サマープログラムに参加した感想 王清霖

今回徳島の旅は、私にとっては素晴らしい経験でした。様々な日本に関する事を知ると同時に、徳島の文化に接触することができ、たくさんの忘れない思い出を手に入れました。最初徳島に着いたの日に、驚いたのは泊まったしんくら会館だった。まるで映画を見ているかのような和室で、確実に日本にいると感ずることが出来ます。徳島にいるとき、印象深い出来事は鳴門海峡で渦巻きを見ることでした。初めて船から観察する経験は、私にとって新鮮でした。

祖谷八景の民宿に一晩泊まったことも私にとっては珍しい体験でした。普段都会で生活することが多い私が、その日は大自然に囲まれ、地元の農家で採れた新鮮な野菜を食べ、宿のご主人である西岡さんが披露してくれ手品を見ました。最後には風の音に包まれながら、だんだん眠りにつくことができました。

私は村上先生に感謝しています。先生は十分な機会を与えてくださり、同輩と交流しながら、私はもっと日本や日本人についての理解を深めることができました。この14日間、徳島の様々な場所を訪れ、人形遣いのショーを観賞したり、ハンカチの藍染めをしたりしました。しかし、一番印象深いのは、日本語での交流が増え、多くの人と縁を結び、新しい友達と出会って、普段台湾の友達と全然異なる話題を交わすことでした。この2週間は、自由で充実した時間を過ごすことができました。

2023 年サマープログラム

鄭弘翌

育達科技大学人文社会学院からサマープログラムに参加するのは、私と他の三人の後輩でした。私たちはサマープログラムで13日間、徳島で色々な特別な体験ができました。サマープログラムでとても有意義な時間を過ごしました。

初日は関西空港に着いたら、先生はすでにそこで私たちを迎えました。先生は朝早く空港に着いて私たちを待って、また私たちを連れて、電鉄や船などの乗り換えで無事に徳島の寮に送ってくださいました。この旅に先生はとても疲れたと思いますが、港から徳島へ移動途中も私たちに色々な徳島についての知識情報を語りました。先生の話で、徳島へ移動する間はとても面白かったです。

翌日、私たちは車に乗って板野町にある伝統的な工芸体験施設「技の館」に向かって、藍染を体験した下。実際に作る前には、ガイドが簡単な方法で美しいハンカチを染める方法を教えてくれました。手足が不器用の私では、布を染めることすら難しいものでしたが、何とか自分だけ唯一のハンカチを染め上げることができました。藍染体験で自分の手で布を染めることができた瞬間は達成感が感じました。

スケジュールに予定に従って、私たちは地元の池田高校との交流を行いました。池田高校の生徒たちは、徳島の地元の文化や観光スポットについて詳細に紹介してくれました。それだけでなく、生徒たちは教室で阿波踊りを披露してくれまして、本当に素晴らしかったです。交流が終わった後、私たちは高校生たちと一緒に昼食をとり、おしゃべりしました。食事の後、吉野川の観覧船に乗りました。ガイドの話によって、この地域は昔から雨が多かったため、川岸には独特の形状を持つ岩が多くなっているそうです。

その日のよる、私たちは東祖谷にある古民家「祖谷八景」に宿泊しました。その地域の景色は非常に素晴らしく、高い山々に囲まれているため、異世界に入ったような感覚がありました。民宿のオーナーは非常に面白く、私たち外国人がその地域に慣れていないだろうと心配していたのか、時折私たちに話をかけて、笑い話をしてくれました。そして、民宿のオーナーが昔、マジックを習ったことがあるそうで、マジックショーを披露してくれ、楽しいエンターテインメントでその日を締めくくりました。

活動期間がもうすぐ終わる前のその前日、先生との大阪旅行に行きました。先生はその一日中、近いか、遠いかではなく、私たちが行きたいところを案内していただきました。

翌朝、先生に見送られ、私たちは空港に向かう列車に乗りました。これらの二日間で私たちは非常に特別な経験をしました。

この期間には先生や他の方々に迷惑をかけまくってましたが、先生方はいつもお世話になっておりました。サマープログラムの期間中に様々な面白い出来事がありました。これらの経験は研修終了後も私たちの永遠の思い出となるでしょう。学校は私たちに日本の学生たちと交流する機会を提供してくれ、地元の人々の視点から観光地や文化などを見ることができました。この貴重な機会を生かして知識を増やし、経験を積むことができれば、研修はより充実になるでしょう。かつて観光客の視点から見たものは、異なる視点から見ることで、一般的な表の知識よりも深い内容を理解することができました。今回はサマープログラムに参加できて、本当に良かったです。

2.1.7 今後の課題とまとめ

(1) 実施体制

村上と吉岡准教授との共同で、授業、学外交流、生活全般などの面での実施体制が整いつつある。今後は、他の教員への授業参加も視野に入れつつ、同時並行で実施される他部局のプログラムとも連携して、内容の充実を図りたい。

学外腕の研修、ことに、池田高校、脇町高校には過分の協力、ご高配をいただいている。生徒のみなさんも意欲的であり、今後とも協力して継続したい。

(2) 本学に在籍する学生について

授業やエクスカーションに参加した、本学に在籍する学生の満足度は非常に高い。しかしながら、授業や期末試験との重なりから、参加を断念する、見送るケースが少なくない。適切な実施時期の問題は難しい。

(3) 全般的なこと

台湾からは、多くの学生が参加を希望している。国際センターのプログラムと合わせて、今後とも多くの希望者を受け入れたい。参加国・地域の多様化も課題で、可能範囲でベトナムやインドネシアなどの国からも参加を募りたい。

研修の実施にあたっては、多額の補助を受けるとともに、事務方の関係各所には、多大なる支援をいただいた。ここに記して感謝申し上げるとともに、次年度以降も、さまざまな方面でのご協力をお願いしたい。

2. 2 歯学部学生交流プログラム

**Inbound Student Exchange Program,
Faculty of Dentistry**

2. 2 歯学部学生交流プログラム

2.2.1 目的

The purpose of the program is to promote the mutual interests of partner schools in developing educational programs, studies, and other activities such as providing opportunities for students and teachers to develop professional and intercultural knowledge and skills, building an understanding and appreciation of other countries and cultures, curriculum development, and other special programs and projects.

2.2.2 日程

The 3-week program was divided into three main segments: academic, clinical, and research segment. The academic segment consisted of special lectures by professors in dentistry and other allied health fields. The clinical segment consisted of specialty rotation visits to the university dental clinic, visits to a private dental clinic and private hospital, anatomy museum, and participation in the clinical skills training with 4th-year dental students. The research segment consisted of field-specific research exposure chosen by the participants. (see attached file for schedule)

Inbound Student Exchange Program November 6 - November 24, 2023							
Date		Morning		Afternoon		Evening	
November 6	Monday	Dental English 1 8:30-9:30 (Dr. Rodis)	Dental English 2 11:00-12:00 (Dr. Rodis)	Diagnostic and Treatment of Malocclusion 13:00-14:20 (Dr. Tanaka) (101)	Orientation (14:30-15:00) Dental Museum 15:00-15:50 (Dr. Baba)	Welcome Party	
November 7	Tuesday	Nursing Robotics 9:45-10:45 (Dr. Tanaka) (101)	Special Mini-lectures Dr. Anya / Dr. Rini / Dr. Resha	Conservative Dentistry Lab Training			
November 8	Wednesday	Oral Cancer Biology 9:00-10:20 (Dr. Kudo) (101)	Oral Rehabilitation 10:30-11:50 (Dr. Ishikawa) (101)	Prosthetic Dentistry Lab Training (Dr. Hosoki)		Baseball Experience	
November 9	Thursday	The Influence of Oral Biofilm on Local Infection such as Periodontitis, and Systemic Diseases 9:00-10:20 (Dr. Yumoto) (101)	Current topics of tooth development 10:30-11:50 (Dr. Miyoshi) (101)	Smart Biomaterials 13:00-14:20 (Dr. Homeda) (on-demand)	Orofacial Pain 16:00-17:00 (Dr. Matsuka) (101)		
November 10	Friday	Kawashima Hospital Study Tour (Dr. Matsuka)					
November 11	Saturday	Free Day					
November 12	Sunday	Free Day					
November 13	Monday	Dental English 1 8:30-9:30 (Dr. Rodis)	Dental English 2 11:00-12:00 (Dr. Rodis)	Clinic: Perio: Aiyah Syedza Rukmana, Chondha Nabila Wh, Prostho2: Khalif Shafidhila Delphi, Farah Amara Dirgeyusa, Prostho2: Aurelia Vinta Ayaniti Binkoro, Dyah Ayu Riqi Nilmaran, Pedro: Tiffany Winata, Magfirah Cahya Lestari, Ortho: Ida Ayu Kade Isti Samswati, Anisa Noer Harjanti			
November 14	Tuesday	Clinic: Perio: Khalif Shafidhila Delphi, Farah Amara Dirgeyusa, Prostho2: Tiffany Winata, Magfirah Cahya Lestari, Pedro: Ida Ayu Kade Isti Samswati, Anisa Noer Harjanti, Ortho: Aiyah Syedza Rukmana, Chondha Nabila Wh		Oral Pathology Lab Training (Dr. Ishimaru)			
November 15	Wednesday	Surgery Room or Clinic		Surgery Room or Clinic			
November 16	Thursday	Clinic: Perio: Aurelia Vinta Ayaniti Binkoro, Dyah Ayu Riqi Nilmaran, Prostho2: Tiffany Winata, Magfirah Cahya Lestari, Prostho2: Ida Ayu Kade Isti Samswati, Anisa Noer Harjanti, Pedro: Aiyah Syedza Rukmana, Chondha Nabila Wh, Ortho: Khalif Shafidhila Delphi, Farah Amara Dirgeyusa		Clinic: Perio: Ida Ayu Kade Isti Samswati, Anisa Noer Harjanti, Prostho2: Aiyah Syedza Rukmana, Chondha Nabila Wh, Khalif Shafidhila Delphi, Pedro: Farah Amara Dirgeyusa, Aurelia Vinta Ayaniti Binkoro, Dyah Ayu Riqi Nilmaran, Ortho: Tiffany Winata, Magfirah Cahya Lestari			
November 17	Friday	Itabagawa Dental Clinic Visit (Dr. Itabagawa)		Japanese Culture Experience: Kimono-wearing / Tea Ceremony / Origami			
November 18	Saturday	Naruto Tour, Indigo Dye Experience, Awa Odori Kikan (Dr. Tanaka, Dr. Kudo - Japanese student volunteers)					
November 19	Sunday	Free Day					
November 20	Monday	Dental English 1 8:30-9:30 (Dr. Rodis)	Dental English 2 11:00-12:00 (Dr. Rodis)	Research			
November 21	Tuesday	Research		Research			
November 22	Wednesday	Research		Research			
November 23	Thursday	Iga Tour (Dr. Baba, Dr. Matsuka - Japanese student volunteers)					
November 24	Friday	Preparation for Final Presentation			Presentation and Farewell Party		
November 25	Saturday	Departure					
November 26	Sunday						



2.2.3 講義概要

One-hour special lectures were held in a classroom in the dental school building dedicated to the exchange program. Lectures were conducted in English and covered different fields in dentistry, medicine, nursing, and artificial intelligence. The exchange students also joined six classes of the Dental English course where they interacted with Japanese students in role-playing activities and group discussions. Moreover, the exchange students also participated in a special Japanese culture experience, which included kimono-wearing, tea ceremony, origami, and Japanese cuisine (okonomiyaki and takoyaki). They also conducted cooking classes on Indonesian cuisine like chicken rendang, nasi goren, and desserts. (see photos)



2.2.4 エクスカーション

Excursions consisted of activities showcasing Japanese (Tokushima) arts, culture, and sights. Exchange students, together with around 20 Japanese volunteer students, went to Naruto, Iya Valley, Aizumi for Indigo-dyeing, Awa Odori Kaikan, Asutamu Land, visited some temples, and some souvenir shops and restaurants offering Japanese items and dishes. (see photos)



2. 2. 5 修了証書

The exchange students gave a final presentation at the end of the program and were given a Certificate of Completion and Certificate of Credits. (see attached file)



Tokushima University Faculty of Dentistry

18-15, 3 Kuramoto-cho, Tokushima 770-8504, Japan

CERTIFICATE OF COMPLETION

November 24, 2023

To whom it may concern,

This is to certify that _____ has completed the study curriculum for the 2023 Student Exchange Program organized by the Faculty of Dentistry, Tokushima University from November 6 to 24, 2023.

**Otto Baba, D.D.S., Ph.D.
Dean
Faculty of Dentistry
Tokushima University
Japan**

Official Seal



Tokushima University Faculty of Dentistry

18-15, 3 Kuramoto-cho, Tokushima 770-8504, Japan

CERTIFICATE OF CREDITS

2023 Inbound Student Exchange Program (November 06, 2023 – November 24, 2023)

Name:

<u>Study Course</u>	<u>Credits (hours)</u>
1. Lecture (Name of Lecturer)	
① Diagnosis & Treatment of Malocclusion (Prof. Tanaka)	1
② Mini Lectures (Dr. Rini, Dr. Recita, Dr. Arya)	1
③ Oral Cancer Biology (Prof. Kudo)	1
④ Oral Rehabilitation (Prof. Ichikawa)	1
⑤ Influence of Oral Biofilm on Local Infection (Prof. Yumoto)	1
⑥ Current Topics of tooth Development (Prof. Miyoshi)	1
⑦ Smart Biomaterials (Prof. Hamada)	1
⑧ Orofacial Pain (Prof. Matsuka)	1
⑨ Dental English (Prof. Rodis)	6
2. Laboratory Training (Name of Lecturer)	
① Conservative Dentistry (Prof. Yumoto)	4
② Prosthetic Dentistry (Prof. Hosoki)	4
③ Oral Pathology (Prof. Ishimaru)	4
④ Oral Surgery (Prof. Miyamoto)	4
3. Nursing Care (Name of Lecturer)	
① Nursing Robots (Prof. Tanioka)	1
4. International Student Exchange	
① Happy Lunch Hour (Japanese & Indonesian Cuisine)	2
② Discussion and Presentation (Education, Culture)	1
③ Performance (Indonesian Traditional Dance)	1
④ Study of Japan (Origami, Tea Ceremony, Kimono, Calligraphy)	5
⑤ Tokushima Sight-seeing Trips (Naruto, Iya, Indigo Dyeing)	16
⑥ Japanese Club Experience (Junko Baseball, Soft Tennis)	2
5. Pre-clinical Visit	
① Kawashima Hospital	4
② Anatomy Museum	4

Otto Baba, D.D.S., Ph.D.
Dean, Faculty of Dentistry
Tokushima University, Japan

Official Seal

Date of Issue: November 24, 2023

2.2.6 アンケート結果

The program provided opportunities for the exchange students to learn more about Japanese culture, cuisine, and most especially dentistry in Japan. Conversely, it provided opportunities for Japanese volunteer students to interact and learn more about Indonesian culture, cuisine, and dentistry in Indonesia, using English.

2.2.7 成果報告

Future concerns include sustainable accommodation, protocols when students become sick, and personal lockers. We sincerely hope that these concerns will be addressed by the administration since exchange programs are the face of the university.

2. 3 創成科学研究科サマースクール

International Affiliated Double-Degree Program Summer School

2. 3 創成科学研究科サマースクール

2.3.1 目的

サマースクール、スプリングスクールとも本研究科が注力する環境関連技術・エネルギー関連技術をコアとする英語授業、並びに、研究室インターンシップを実施した。サマースクールはまだコロナ禍の影響が憂慮されたのでオンラインとした。一方、スプリングスクールはそのサマースクールの参加者なから面談を行って JASSO 奨学金授与対象者を選定し、徳島大学理工学部を中心とする対面で行った。本学の専門講義、フィールドワークや研究室インターンシップを通じて徳島県、徳島大学を身近に体感し、本学大学院創成科学研究科への入学のモチベーションを向上させることを目的とした。

2.3.2 日程

サマースクールは7月24日から8月11日までの19日間、オンラインにて111名の学生が参加した。ほとんどの学生が熱心に講義やグループディスカッション、パネルディスカッション、研究プレゼンテーション、ヴァーチャルインターンシップ・フィールドトリップ等に参加した。開会式の様子(ZOOMのスクリーンショット)を図1)に示した。

スプリングスクールは2月26日から3月6日までの10日間、対面にて24名の学生が参加した。サマースクールに参加していた学生からスプリングスクール参加希望者を募り、1名あたり5ないし10分程度の事前面談をオンラインで行い JASSO 奨学金を受給する対象者(スプリングスクール参加者)を決定した。その際在籍大学での学修成績票の提出を求め、成績係数2.3以上の学習成績を修め、英語でのコミュニケーションが問題なく行え、徳島大学スプリングスクール参加に熱意を感じられた学生を選考した。スプリングスクールもサマースクール同様、学生が熱心に講義やグループディスカッション、研究プレゼンテーション、インターンシップ、フィールドトリップ等に参加した。スケジュールは別添資料参照。

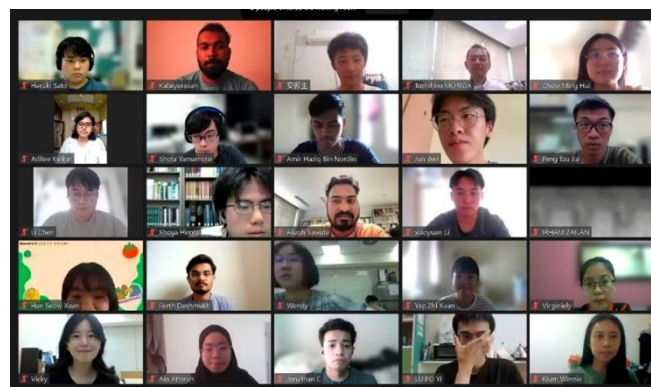
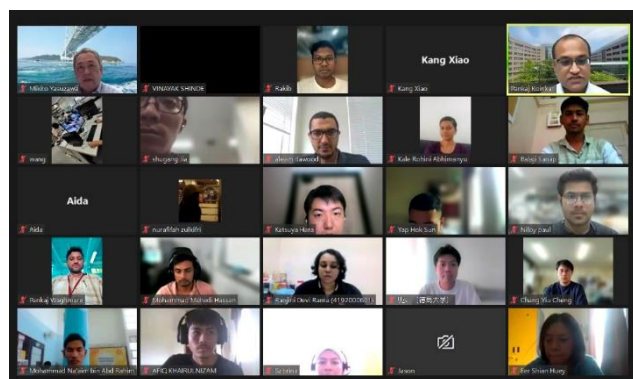


図1. サマースクール開会式の様子 (ZOOMのスクリーンショット)

Spring School 2024

Feb 26- March 6, 2024, Tokushima University

Place: Alumni Memorial Hall, Josanjima Campus

February 26 (Monday)	16:00 18:00	Registration		
February 27 (Tuesday)	10:30 10:45	Opening Ceremony	Opening Speech Prof. Mikito Yasuzawa (Director, CIREC, Tokushima University Japan)	
	10:45 12:00	Introduction & Campus tour	Dr. Pankaj Koinkar (Tokushima University, Japan)	Introduction of Spring School Program
	13:00 14:30	Lecture 1	Dr. Hiroshi Sakata (Tokushima University, Japan)	Japanese Language for Beginners
	14:40 16:10	Lecture 2	Dr. Naoya Kuse (Tokushima University, Japan)	Introduction of optical frequency combs
February 28 (Wednesday)	10:30 12:00	Lecture 3	Dr. Stephen Karungaru (Tokushima University, Japan)	An overview of Artificial Intelligence
	13:00 14:30	Lecture 4	Dr. Yasuhide Ohno (Tokushima University, Japan)	Epitaxial graphene based biosensors
	14:40 16:10	Lecture 5	Prof. Akihiro Furube (Tokushima University, Japan)	Plasmon-induced interfacial electron transfer dynamics in metal/semiconductor nanosystems
	February 29 (Thursday)	9:00 16:30	Field trip	Sightseeing around Tokushima
March 1 (Friday)	10:30 12:00	Lecture 6	Dr. Momoyo Ito (Tokushima University, Japan)	How are Autonomous Driving Systems in Japan and Your Country?
	13:00 14:30	Group Discussion I :	- Future of Artificial Intelligence - Global Effect of Climate Change	
	14:40 16:10	Group Discussion II :	- Renewable Energy - Global Food Crises - Current Environmental Problems	
	March 3 (Sunday)	13:00 15:00	Japanese Drum performance (International Center, Tokushima University)	
March 4 (Monday)	Participation in International Symposium on Science and Engineering Education			
	10:30 11:00	Lecture 7	Dr. Meng-Lin Tsai (NTUST, Taiwan)	Introduction to the Graduate Studies in MSE, NTUST
	11:00 11:30	Lecture 8	Prof. Tamotsu Tanaka (Tokushima University, Japan)	Acceptance of foreign students and international research activity in Tanaka's laboratory
	11:30 12:00	Lecture 9	Dr. Pankaj Koinkar (Tokushima University, Japan)	Getting your higher education abroad: how to do it
	13:00 15:00	Poster Presentation by Double Degree students		
March 5 (Tuesday)	10:30 12:00	Lecture 10	Dr. Meng-Lin Tsai (NTUST, Taiwan)	Nanoscale Designs and Nanomaterials for Display and Semiconductor Applications
	13:00 16:00	Laboratory Internships: Prof. Kenji Yamamoto, Dr. Masatusgu Oishi, Dr. Antonio Nakagaito		
March 6 (Wednesday)	10:30 12:00	Group Presentations		
	13:00 14:00	Closing Ceremony Prof. Yasunori Muto (Dean of Science and Technology, Tokushima University Japan)		

2.3.3 講義概要

プログラムの導入部分には、日本語・徳島の文化等の講義を実施した。また、PBL（問題解決型学習）型グループディスカッションを本学学生と協働で行った。主要題目は「地球温暖化」「エネルギー問題」等スクール主催側が提案した 10 テーマから各学生が選択し、スクール主催側が任意にグループ分けを行い、ディスカッションを行った。更に各自の希望等で決定した研究室インターンシップを実施した。また、第 1 週目のグループディスカッションの成果発表、海外留学・国際交流の意義等をテーマにしたパネルディスカッションを行った。パネルディスカッションの主要題目は「研究と教育における文化の多様性」とした。なお、専門講義は、全員が受講するコア授業に加え、各自の専門に応じたナノテクノロジーコース、電気エネルギー・情報工学コース、環境保全コースの選択講義も行った。更に、参加学生自身の行っている研究内容について、参加者全員に対しプレゼンテーションを行った。

Week 1 : July 24 to July 30

	Monday (July 24)	Tuesday (July 25)	Wednesday (July 26)	Thursday (July 27)	Friday (July 28)	Sat. & Sun. (July 29-30)
12:50 - 14:20	Opening Ceremony Prof. Yasunori Muto (Dean of Science and Technology, Tokushima University Japan) Prof. Mikito Yasuzawa (Director, CIREC, Tokushima University Japan) Orientation Dr. Pankaj Koinkar (Tokushima University, Japan)	Panel Discussion: “Cultural Diversity in Research and Education”	Lecture 3 Tokushima Local Culture Prof. Satoshi Hashimoto and Dr. Tran Hoang Nam (Tokushima University, Japan)	Student conference I Student presentation on the research topic	Group Discussion I Choose the topic for the presentation and make outline	Free time
14:20 – 14:35	Break					
14:35 - 16:05	Lecture 1 Field Electron Emission: Fundamentals and Application Prof. M. A. More (S.P. Pune University India)	Lecture 2 The Applications of Hyperspectral Images in Post-harvest Process of Fruits Prof. Nai-Shang Liou (Southern Taiwan University of Science and Technology, Taiwan)	Lecture 4 Japanese Communication and Culture Dr. Hiroshi Sakata (Tokushima University, Japan)	Student conference II Student presentation on the research topic	Lecture 5 Empowering Object Detection in Various Industrial Applications Dr. Muhammad Noorazlan Shah Bin Zainudin (Universiti Teknikal Malaysia Melaka, Malaysia)	

Week 2: July 31 to Aug. 6

	Monday (July 31)	Tuesday (Aug. 1)	Wednesday (Aug. 2)	Thursday (Aug. 3)	Friday (Aug. 4)	Sat.& Sun. (Aug. 5-6)	
12:50 - 14:20	Lecture 6 Introduction to differential geometry in Science and Technology Dr. Yasumoto Masashi (Tokushima University, Japan)	Lecture 8 Improvement of Hygiene Environment in Poultry House by UV-LED Irradiation and Industrial use of plant lipids Prof. Tanaka Tomotsu and Dr. Mutsumi Aihara (Tokushima University, Japan)	Student Presentations I Presentation on Culture, History, and Education	Lecture 10 Nanoscale Designs and Nanomaterials for Display and Semiconductor Applications Dr. Meng-Lin Tsai (National Taiwan University of Science and Technology, Taiwan)	Virtual field trip I	Free time	
14:20 – 14:35	Break						
14:35 - 16:05	Lecture 7 TBA Introduction to Deep Learning Dr. Stephen Karungaru (Tokushima University, Japan)	Lecture 9 Nanophotonics Engineering for deep ultraviolet and visible wavelength applications Dr. Yuusuke Takashima (Tokushima University, Japan)	Student Presentations II Presentation on Culture, History, and Education	Group Discussion II Preparation for Final presentation	Lecture 11 Sustainability in Material Science - A Case Study on Circular Economy of Polymer Recycling towards Manufacturing Sustainability Dr. Jeefferie Bin Abd Razak (Universiti Teknikal Malaysia Melaka, Malaysia)		

Week 3: Aug. 7 to Aug. 11

	Monday (Aug. 7)	Tuesday (Aug. 8)	Wednesday (Aug. 9)	Thursday (Aug. 10)	Friday (Aug. 11)
12:50 - 14:20	Lecture 12 Introduction of bridge engineering and Countermeasures to corroded steel bridges Dr. Hitoshi Moriyama (Tokushima University, Japan)	Lecture 14 Introduction to Physical Chemistry of Subcritical and Supercritical Aqueous Systems Dr. Ken Yoshida (Tokushima University, Japan)	Lab visit II Introduction of Institute of Post-LED Photonics Prof. Takaaki Yano (Tokushima University, Japan)	Group Discussion III Final group Presentations	- Student Feedback - Closing Ceremony Prof. Toshihiro Moriga (Vice-Director, CIREC, Tokushima University Japan)
14:20 – 14:35	Break				
14:35 - 16:05	Lecture 13 Research in computer science and its applications Prof. Bharti Gawali (Dr. B. A. M University, India)	Lab visit I TBA	Lecture 15 Introduction of the researches for ultra-realistic communication and information display Prof. Kenji Yamamoto (Tokushima University, Japan)	Group Discussion IV Final group Presentations	

You can join the Online Summer School using the following link

<https://us02web.zoom.us/j/83993705976?pwd=Slh1VUdPVC9uMkordHR4N2ducukyUT09>

Meeting ID: 839 9370 5976

Passcode: SS2023

2.3.4 エクスカーション

サマースクールは、8月4日にヴァーチャルフィールドトリップとして鳴門渦潮の観潮船から映像と実況を英語にてライブ配信を行った。観潮船にレポーターが実際に乗船し、そこからの風景およびその風景の解説を配信するとともに、鳴門海峡で何故うずしおがおきるのか、そのメカニズムについて解説した。

スプリングスクールでは、2月29日にフィールドトリップとして徳島県美馬市脇町のうだつの町並みを訪問した。日本の伝統的な町並みやその生活を実体験するとともに、阿波和紙を用いたランプシェード作成、文化体験を体験した。その時の集合写真を図2に示した。



図2. スプリングスクールフィールドトリップの様子

2.3.5 修了証書

サマースクールでは、80%以上参加の学生を対象に、スプリングスクールは参加学生全員に修了証書を渡した。また、グループディスカッション、自身の研究に関するプレゼンテーションを行った学生の上位20%程度に対して、その担当教員の協議のもと優秀プレゼンテーション賞を贈呈した。

2.3.6 アンケート結果

サマースクール、スプリングスクールともそれぞれのスクール修了後、参加者アンケートを実施した。専門講義については、参加学生自身の専門と異なる専門性を持つ講義に対しても比較的高い満足度が得られているように思われた。これは、専門講義を行った先生方の創意・工夫によるものと思われる。グループディスカッション、自身の研究に関するプレゼンテーションについては、参加学生の

ほとんど全員が5段階評価中、4あるいは5をつけておりその関心の高さと満足度の高さが伺える。また、サマースクールのバーチャル鳴門渦潮観潮では徳島の美しさ、自然現象の不思議さを感じる事ができ、スプリングスクールの町並み見学、リアル文化体験では日本文化の素朴さやきめ細やかさを体験することができたようで、参加学生から非常に高い評価を得た。

2.3.7 成果報告

徳島大学理工学部（大学院創成科学研究科）で毎年3月（今年度は3月4日）に International Symposium on Global Engineer Education と題してシンポジウムを行い、その内容を紹介して問題点等の改善に役立てている。今年度はちょうどスプリングスクールの開催期間中に実施できたので、プログラムを一部共通化し、スプリングスクール参加学生もシンポジウムに参加してもらえるようにした。

2.3.8 今後の課題とまとめ

対面形式のスプリングスクールでは、スクール主催の教員の内少なくとも1名が、SNSや電子メールを使って即時に情報を共有とれる体制を敷いた。実際、週末や夜間に体調を壊した留学生が出たが、迅速に夜間・休日対応病院に引率・対応し、事なきを得ている。学生本人から、またその学生のお父様からお礼の言葉をいただいている。

次年度からは、コロナ禍も一段落したので、コロナ禍前のように対面形式のサマースクールのみに一本化する予定である。引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

2. 4 インターナショナルオフィス
サマースクール
「徳島であおう！」

**International Summer School at Tokushima
University**

Get together in Tokushima!

2. 4 インターナショナルオフィスサマースクール

「徳島であおう！」

2.4.1 目的

本サマースクールは、（1）海外の協定大学等から参加する学生が、将来本学で交換留学生や正規外国人留学生として学んでもらうこと、（2）徳島大学での学習や研究、ならびに徳島の文化について理解してもらうこと、また日本人学生や地域住民と交流することで日本人と日本文化を理解してもらうこと、（3）日本人学生や高校生を含めた地域住民が海外からの参加学生と共に活動することで国際的な視野を広げ、日本の外に目を向け、国際理解、多文化理解をすすめる、本学ならびに徳島地域のグローバル化を促進すること、（4）様々な国や大学からの参加者が出会いお互い知り合うことで、今後の国際化に向けた自らへの振り返りを促すこと、を目的として実施した。

2.4.2 日程

期 間：2023 年 7 月 19 日（水）～7 月 26 日（水）

参加人数：55 名

（海外からの参加者：29 名、日本人学生：7 名、地域住民：13 名、学内留学生：6 名）

【中国】

・大連理工大学 16 名 （引率 2 名を含む）

【ベトナム】

・ハノイ建設大学 9 名

【マレーシア】

・マレーシア・マラッカ技術大学 2 名

【インドネシア】

・ハントゥーア大学 1 名

【モンゴル】

・モンゴル医科大学 1 名

日程

1 日目：7 月 19 日（水）		
18:00-	徳島駅集合&ホテルオリエンテーション（シビックセンター会議室）	
2 日目：7 月 20 日（木）		
8:30-9:30	受付、必要書類記入	多言語交流コモンラウンジ
9:30-10:00	開講式、記念撮影	〃
10:10-13:30	オリエンテーション、キャンパスツアー、日本人学生との交流	〃
13:30-14:00	休憩	〃
14:00-15:50	研究室訪問	常三島・蔵本キャンパス
16:00	ホテル着	東横イン
3 日目：7 月 21 日（金）徳島文化体験（1）		
9:00-10:30	藍染体験	藍の館
10:30-10:45	移動	
10:45-11:30	四国遍路体験	霊山寺
11:30-13:30	昼食	ゆめタウン
13:30-14:15	移動	
14:15-15:30	渦潮体験	渦の道
15:30-16:15	移動	
16:15	ホテル着	東横イン
4 日目：7 月 22 日（土）徳島文化体験（2）		
8:50-9:20	集合・オリエンテーション	多言語交流コモンラウンジ
9:20-9:45	和太鼓見学	けやきホール
9:45-10:30	和太鼓・浴衣体験 ・ Group A：和太鼓体験 ・ Group B：浴衣体験	けやきホール 総合科学部 2 号館多目的室
10:30-10:40	グループ入れ替え	〃
10:40-11:25	和太鼓・浴衣体験 ・ Group B：和太鼓体験 ・ Group A：浴衣体験	〃
11:25-13:00	昼食	
13:00-13:30	移動	
13:30-16:00	阿波踊り公演見学、眉山頂上散策	阿波踊り会館 眉山
16:00	解散	
5 日目：7 月 23 日（日）		
	予備日（自由行動）	

6日目：7月24日（月）日本文化体験・日本企業訪問		
7:15-10:00	バス移動	ホテルサンルート前発 姫路城着
10:00-11:30	姫路城見学	姫路城
11:30-12:20	移動	
12:20-14:20	昼食	アリオ加古川
14:20-14:45	移動	
14:45-16:10	アサヒ飲料見学	アサヒ飲料明石工場
16:10-18:40	徳島に移動	
18:40	解散	ホテルサンルート前
7日目：7月25日（火）		
9:30-10:00	県庁に移動	東横イン→県庁
10:00-11:30	県庁・検察本部訪問	県庁、警察本部
11:30-12:00	移動	県庁→常三島キャンパス
12:00-13:30	昼食	
13:30-14:20	日本人学生との交流 （橋本先生日本語授業とコラボ）	Future Center
15:00-16:00	振り返り発表会	〃
16:00-16:30	修了式	〃
16:30-17:15	自由時間	
17:15-17:30	移動	常三島キャンパス→ パークウェストンホテル
17:30-18:00	合同交流会受付	
18:00-20:00	合同交流会	パークウェストンホテル
20:00	解散	
8日目：7月26日（水）		
9:00-	ホテルチェックアウト・解散	東横イン

合同写
真



合同交流会



研究室訪問（常三島キャンパス）

2.4.3 講義・活動概要

実施期間 2023年7月19日（水）～7月26日（水）

場所 地域創生・国際交流会館 他（日程参照）

講師一覧

インターナショナルオフィス長	副学長（国際交流担当）	河野 文明
インターナショナルオフィス教員	教授	金 成海
	教授	橋本 智
	准教授	坂田 浩
	講師	TRAN HOANG NAM



開講式



キャンパスツアー



研究室訪問（蔵本キャンパス）

2.4.4 エクスカーション

日時：2023 年 7 月 21 日（金）

○藍染体験 9:30 -10:30



○霊山寺訪問 10:45-11:30



○渦の道訪問 14:15-15:30



日時：2023 年 7 月 24 日（月）日本文化体験・日本企業訪問



姫路城入口



姫路城中庭



姫路城内



姫路城集合写真



アサヒ飲料会社説明



アサヒ飲料会社展示見学



アサヒ飲料会社展示見学



アサヒ飲料お土産コーナー

Tokushima University



THIS IS TO CERTIFY THAT

has completed
the course program
of
International Summer School
at Tokushima University
“Get Together in Tokushima, Japan 2023”
July 19 – July 26, 2023

NAGAMUNE Hideaki, Ph.D.
Director of Research Center for
Higher Education
Tokushima University
Japan

2.4.7 成果報告

2023年7月19日（水）から7月26日（水）にかけて、徳島大学インターナショナルオフィスはサマースクール「徳島であおう！」を開催した。このサマースクールは毎年継続的に行なわれており、今年度は海外協定大学等からの学生27名（中国14名、ベトナム9名、マレーシア2名、インドネシア1名、モンゴル1名）、引率教員2名、日本人学生7名、地域住民13名、本学で学ぶ留学生6名の合計55名が参加した。

インターナショナルオフィスのサマースクールは、将来、本学大学院に入学する留学生や、将来交換留学生として本学で学ぶ学部学生をターゲットとしている。そのため、本サマースクールに参加した学生が学部や大学院に入学すること、そして「徳島にまた来たいと思う」気持ちを育むことを念頭にプログラムを企画・運営した。

インターナショナルオフィス主催のサマースクールの目的と内容は、次の4点である。

1. **徳島大学におけるアカデミックな活動に関する情報提供：**『海外の協定大学等から参加する学生が将来本学で交換留学生や正規外国人留学生として学んでもらうための動機付けと情報提供を行う』

インターナショナルオフィス教員による「徳島と徳島大学の紹介」や徳島の文化に関する講義・エクスカッション、常三島・蔵本地区での「キャンパスツアー・研究室訪問」を行なった。

「キャンパスツアー・研究室訪問」に関しては、参加者の専門に合った学部を訪問し、本学の最先端の研究を直接見聞きし、ユニークな研究や教育活動について知ることができように企画した。今回は、歯学部・医学部、理工学部に分かれて研究室訪問を行った。

参加者が将来本学で学ぶためには、「何を学ぶことができるのか」といった学術分野に関する情報と「どの教員の研究室で学ぶことができるのか」といった研究分野や研究室に関する情報を得ることはとても重要であり、今回の「徳島大学紹介」や「研究室訪問」でこれらの情報を具体的に提供できたと考ええる。

2. **徳島・日本文化、そして日本人を理解するための学びの機会の提供：**『本学での学習や研究、ならびに徳島の文化について理解してもらう。また日本人学生や地域住民と交流することで日本人と日本文化を理解してもらう』

今回のプログラムでは、徳島の文化に関する講義、地域の方々の協力による和太鼓・浴衣体験や、藍の館での藍染め体験、県庁・県警策本部の見学といった、多様な文化・社会理解と交流の機会を提供し、参加者から高評価を受けた。今回は、新しい試みとして姫路城とアサヒ飲料明石工場の見学をプログラムに取り入れ、徳島県以外の日本文化・日本企業を体験する機会を提供した。ほとんどの参加者にとって姫路城とアサヒ飲料の見学は初めてであったことから、非常に高い評価を得ることができた。

短いプログラムではあったが、本学学生、地域の人々と交流を体験し、参加者は多くの時間「生の」日本人・日本文化と接することができたと思う。単に徳島や日本の文化を知るだけでなく、自分たちが実際に体験することで日本や徳島を知り、日本人の行動や感情を理解してもらう機会を提供できたという点で、今回のサマースクールは高く評価できると考えている。

3. 日本人学生、地域住民、そして大学の国際化：『日本人学生や高校生を含めた地域住民が海外からの参加学生と共に活動することで国際的な視野を広げ、日本の外に目を向け、国際理解、多文化理解をすすめる、本学ならびに徳島地域のグローバル化を促進する』

日本人学生や地域の方々にとっても、本サマープログラムは有益なものであったと考える。特に、本学の日本人学生にとっては、年齢の近い多くの外国人と接する機会は貴重で、彼らの国際理解や異文化理解を促進することができたと考える。

一方、本学日本人学生や地域の方々は様々な活動を通して外国人の目線や考えを知ることができたであろう。本学の国際化に加えて、地域の国際化を支援することも本学の役割であり、本プログラムはこの点でも貢献できたと考える。

4. 個々の参加者のグローバル化と世界的なネットワークの形成：『様々な国や大学からの参加者が出会いお互い知り合うことで、今後の国際化に向けた自らへの振り返りを促す。また、本学と参加者、参加大学とのネットワークを形成する』

様々な背景をもった参加者（海外協定大学等からの学生、日本人学生、地元高校生、地域の人々）が直接交流する中で、参加者には自文化について説明を求められる機会が多く生まれた。各参加者が紹介し合うときに、自然と相違点だけでなく共通点が見つかり、自文化と他文化に対する理解や関心が高まり、他文化を尊重し、知ろう、理解しようとする姿勢が見られた。

加えて、参加者は様々な活動を通してお互いを知り、SNS 等を使って今後も連絡が取り合えるようなネットワークを形成する機会となった。

2.4.7 今後の課題とまとめ

1. 日程・期間・運営等の課題

今年度に関しては、計画通りすべての計画を予定通り実施できた。

猛暑対策として、今回は屋外での行動・活動をなるべく少なくし、屋内での活動を中心にプログラムを作成した。一部、県庁・県警察本部視察や姫路城・アサヒ飲料明石工場見学などで屋外に出ることはあったが、基本的には屋内での活動を中心としたものになっており、問題はなかったものとする。

例年、阿波踊りの初日に絡めて日程を設定していたが、ホテルの予約が予算上非常に難しく、今年度は7月中にプログラムを完了するように計画を変更した。ただ、実施した日程が学期末のテスト期間であり、日本人学生と交流する機会が非常に限定されたことを考えれば、日程に関して再度検討する必要があるのかもしれない。

参加費3万円を徴収したが、応募者は定員、最終的には参加者の半数以上が同一校からの参加者になった。今後は、予算と参加費、支出をよく検討し、ふさわしい期間と内容、参加費を考え、より幅広い学生が参加できるようにしていきたい。

今年度は、最初の応募が少なかったこともあり、事前キャンセルはほとんどなかった。なるべくキャンセルをしないように参加大学と学生に連絡し、また期日を越えるとキャンセル料を徴収することを言及したためだと思われる。来年も、できるだけキャンセルが出ないように募集していきたい。

プログラム期間内の宿泊に関しては、徳島駅前のホテルを利用したが、全体的には非常に良かったと思う。特に混乱や問題なく宿泊することができたので、次年度も同じようにホテルでの宿泊を検討したいと考える。

年々、スマートフォン・タブレットを持参し日本でのネットワークに接続する参加学生が増えており、今年度はほぼ全員がなんらかの形でネットに接続できる状況であった。今年度も参加学生とのやりとりをLINE、WeChat、Facebookで行ったため、連絡がスムーズにできた。SNSは学生同士の情報交換にも使われ、またプログラム終了後も参加者同士や徳島大学のスタッフとの繋がりが続いている。このようなSNSの活用の有効活用を今後も進めていきたい。

2. プログラムの内容の充実

インターナショナルオフィスが実施するサマースクールは、専門的な知見を提供するというよりも、徳島大学の紹介、徳島・日本の文化理解や日本人学生・地域の人々との交流に主眼を置いているが故に、総合科学部や理工学部が実施するより専門的なサマープログラムと時期を合わせることで、より内容的に充実したものとすることができると考える。例年、参加学生のアンケートでは、専門の授業や日本語学習の時間を増やしてほしいという声もあるが、参加者の専門がバラバラであり、日本語のレベルも参加者によって大きく異なるため、現状のプログラムの内容を大きく変更することは難しい。ただ、今後、総合科学部、理工学部のサマープログラムと連携し、日本語学習、企業見学等、合同交流会以外に共通で行う一方、専門的な内容を各学部を担当してもらうことで、内容の充実を図ることが可能であると考えられ、ぜひその方向で進めていくように検討したい。

研究室訪問に関しては、徳島大学の良さをもっと理解してもらうために、内容の充実を図るべきである。特色ある、興味深い研究をしている教員を探し、直接見学の交渉をして、参加者の専門に関係なく見学に行くといったことがあっても良いだろう。あるいは、上記の述べたように学部との連携を強め、学部の教員に専門の授業を行ってもらったり、実習を企画してもらったりする等が検討できるだろう。徳島大学のイメージアップの方法を、積極的に検討していく。

毎年のことではあるが、本学の日本人学生の参加の方法は再検討を要する。テスト期間中及び夏季休業期間中にサマースクールが行われるため、日本人学生の参加が十分に得られなかった。参加してくれ

る学生はとても積極的であったが、限られた人数になってしまった。事前に「サマプロのための英会話講座」のような企画を提供することで、日本人学生にもメリットと思われるような事前指導等を計画してみる必要があるだろう。

今回参加した留学生の中には、英語でも日本語でもコミュニケーションができない学生が数名見受けられた。冊子に書いてあるスケジュールやキャンパスマップ等の情報は理解できたようだが、英語・日本語でのコミュニケーションには苦勞することがしばしばあった。派遣元の大学に「最低限でも英語でのコミュニケーションができる学生を送るように」という要求はした方が良いだろう。

3 サマースクール T シャツ

2012 年、第一回国際センターサマースクール「徳島であおう！」の開催に際し、参加者や日本人学生サポーター、教職員の一体感を高め、互いに協力して国際交流を推進することを目的に青色の T シャツを作製した。キャッチフレーズ「徳島であおう」は、①徳大生も含めた徳島の人にあう、②参加した各国の仲間にあう、③自分を見つめ直して新しい自分にあう、の意味が込められている。この T シャツのバックの文字は国際センターの地域サポーターでもある書道家の吉野美苑（吉野美保）氏の作で、以後、毎年国際センターサマースクールで使用されていたが、2015 年からは、各コース色違いの T シャツを作製することとなった。

参加者の良き思い出になると同時に、帰国後にもこの T シャツを手にとりて徳島大学への関心を深めてくれることが期待される。



総合科学部（ライトブルー）



創成科学研究科（ライトグリーン）



インターナショナルオフィス（ブルー）

徳島大学サマープログラム 2023 報告書

編集発行：徳島大学サマープログラム等実施委員会
徳島市南常三島町 1 丁目 1 番地

発行年月日：2024 年 3 月 31 日